

<2021年度 オリンピック・ムーブメント事業>

JOCオリンピック教室

— 実施報告書 —

福島県 いわき市立勿来第二中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2021年4月～2022年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、
生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- 期 日：2021年11月1日(月)
- クラス：2年1組(25名)
- オリンピック：荻原 次晴 先生 (スキー / ノルディック複合)【出場オリンピック / 長野大会】
- 授業のながれ：運動の時間 (3時限)

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・東京2020大会のトーチを持ち、聖火ランナーのように走って登場。同大会での日本選手の素晴らしい活躍を沢山観たと思う。皆にとってオリンピックは、とても身近なものになったのではないかな。今日は短い時間ではあるが、一緒に体を動かし、オリンピックをより身近に感じ、オリンピックとは、どのような大会なのかを一緒に考えていきたい、と授業の目的を伝え、準備運動に移る。

○主運動等



・滑走リレー(全2回)を実施。班ごとに分かれ、片足にモップシューズを履き、シューズを履いている足で床を滑りながらリレーをする。スポーツマンシップを守り、きちんとルールを守って行うこと、仲間が頑張っているときは拍手等で応援してほしいと伝え、実施。



・「エクセレンス」は、頑張って磨き上げた先に感じられる気持ち等、「フレンドシップ」は、お互いを励ましあって拍手を送ったりすること等、「リスペクト」は、ライバルといがみ合うのではなく、お互いにベストを尽くして良い試合をすることで、その後に価値が生まれる等。次の座学の授業では、このようなことを皆と一緒に考え、また何故、自分がオリンピックを目指したかということも紹介したいと伝え、授業終了。

- 期 日：2021年11月1日(月)
- ク ラ ス：2年1組(25名)
- オリンピック：荻原 次晴 先生 (スキー / ノルディック複合)【出場オリンピック / 長野大会】
- 授業のながれ：座学の時間 (4時限)

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像と共に競技と自己紹介を行った後、オリンピックバリューとオリンピックを目指した理由を説明する。
本気で頑張った先に何が見えるのか(エクセレンス)、沢山の仲間、兄弟、家族が応援してくれた(フレンドシップ)、夢を実現させて、兄、家族、仲間を尊敬できるようになった(リスペクト)等、オリンピックで沢山のことを学ぶことができた話し、次は皆にも考えてほしいと伝え、個人ワークへ移る。

○個人ワーク～グループワーク等



個人ワーク発問：オリンピックバリューを感じる瞬間や出来事について書き出してみよう。
発表：エクセレンス：「水泳の練習を毎日欠かさずしている」等
フレンドシップ：「部活動の大会でペアがミスしてもドンマイと声を掛けたり、逆にうまくいったときはナイスと声を掛けて励まし合う」等
リスペクト：「部活動の大会では学校で区切らず、皆を応援する」「部活動を教えてくれる先生に感謝をする」等



・考えることは難しかったと思うが、それは普段はあまり意識していないからであり、今の皆にはオリンピックバリューは既に備わっていることを覚えておいて欲しい。今後のオリンピックで活躍する選手を観ながら思い出して、感じてもらえたら嬉しい。皆と同じ中学2年生から「強い選手と弱い選手の違いは何か」との質問があり、「強い選手は弱い選手の気持ちを考えられる人。弱い選手は苦しんでいる人、弱い立場の人の気持ちを考えられない人。強い選手ほど、弱い選手に優しい」と答えた。皆も、強い選手、そして強い人になってほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真



■ 記念品贈呈



■ 修了証贈呈

